

村野藤吾記念会

Togo Murano Committee

各位

第6回村野藤吾賞の授賞が下記のように決定いたしましたので、お知らせいたします。
授賞式及びパーティは5月14日（金）午後6時よりを予定いたしております。よろしく
ご高配のほどお願い申し上げます。なお、今回の審査委員は梅崎正彦／近江栄／岡田新一
／宮本忠長／山下和正（五十音順）です。

3月30日

村野藤吾賞運営委員会

馬場璋造

第6回村野藤吾賞

授賞作品 ホテル川久

設計者 永田祐三（永田・北野建築研究所）

ホテル川久は、和歌山県白浜温泉の名門の旅館を改築したものである。改築にあたって、クライアントと設計者は世界中の本物の建築材料を使って新しいイメージのリゾートホテルをつくり出すことに目標を定めた。すなわち屋根瓦は北京・紫禁城の瑠璃瓦約47万枚、外壁の腰壁はフランス産石材、タイルはイギリス製で約100万個、エントランス両脇の塔は陶板を使った信長塀の手法、ロビーの床はイタリアの大理石モザイクなどで、日本の一流の職人に加わってそれぞれの国の職人が直接施工に携わり、またイギリスの彫刻家やイタリアの画家も参画している。内部の家具調度や装飾品なども、世界中から集めている。そうした多岐にわたる材料は、設計者のディティールへのこだわりと優れたデザイン力によりインテグレートされ、ひとつの建築作品として結実している。

そしてこうした目的を実現するため、資材や職人の手配などもクライアントと設計者の手によって行うという直営方式が採られた。工事はこうした明確な目的意識の下に、クライアント、設計者、職人、芸術家が一体となり、現代には稀な感動的な状況の中で行われた。このようなものづくりに執着した建築のつくり方は、ややもすれば安易に流され勝ちな今日の建築に対して、爽やかな警鐘を鳴らすものである。

ここに第6回村野藤吾賞をこの建築とその設計者に贈り、極めて有意義なその建築的意図と、建築デザインとしての結実を賞する。